

～インクルーシブ教育実現に向けて～

国際理解教育・開発教育を通じたインクルーシブ教育の現状と課題の探求

本研究チームは、開発教育、国際理解教育は、必ずインクルーシブ教育に寄与できるとの考えから本研修主題をあげた。

【研究計画】

- 1年目 特別支援教育における国際理解教育・開発教育の整理
インクルーシブ教育の概念の共有
- 2年目 特別支援教育からみた、インクルーシブ教育の在り方
(国際理解教育・開発教育を通じて 実践案、実践事例)
- 3年目 現場からみたインクルーシブ教育の現状と課題、今後の可能性

～1年目～

- ・特別支援教育における国際理解教育・開発教育の整理を行った。
(教育的 法的(教育基本法 学校教育法 学習指導要領各文献 特総研資料)
- ・インクルーシブ教育の整理、概念の共有を行った。
(インクルーシブ教育の範囲 研究対象範囲)

◎今年度は、研究計画2年目にあたる。昨年度の成果を元に、各校でインクルーシブ教育に可能性を開く実践を積み重ね、検証をした。研究主題に基づき、研究員自らが実践を行い、具体的な事例の中からインクルーシブ教育の中で活用できる学習内容を挙げ、共有でき得る教材や授業展開について考察した。

(※本研究会の考えるインクルーシブ教育とは、障がいをもつ幼児・児童・生徒と健常な幼児・児童・生徒が共に学ぶというだけではなく、障がいの重さに差がある幼児・児童・生徒同士、異学年の幼児・児童・生徒同士、帰国子女とそうでない幼児・児童・生徒同士など幅広いインクルーシブな状態の教育を想定している)

○研修・研究活動の報告

6月～3月の間で毎月1～2回、定期的に研究会を行い、研究員同士の授業実践について検討、報告、考察を行った。互いに授業を高めることができた。

研究会の様子



○授業実践の報告

森 裕紀子 千葉県立 A 特別支援学校 肢体不自由校 対象学年：高等部 2 年生 単元名「外国の生活や日本の生活を知ろう！」
<ねらい> <ul style="list-style-type: none">・異文化に触れ、異文化を知ることで新しいことを知る楽しみを感じることができる。・タンザニアの言葉や生活を知ること、日本の言葉や生活についても再確認することができる。
<活動内容> <ul style="list-style-type: none">・実物を用いて、あいさつ、言語、数字、お金、音楽などについて知る。・生活の様子や風景・街並みなどをフォトランゲージをしながら知る。・調理実習を行い、タンザニア料理を作って食べてみる。
<生徒の様子> <ul style="list-style-type: none">・初めてみるものや写真、映像などに対して興味をもって積極的に取り組んでいた。・外国（タンザニア）のことを知ると同時に、日本のこと、自分の身の周りのことについても振り返るよい機会となっていた。
<考察（インクルーシブ教育で活用できる教材、授業展開）> <ul style="list-style-type: none">・フォトランゲージは写真が教材なので、視覚的に情報を得ることができ、言葉での表出が難しい生徒にとっても指さしなどで想いを伝えることがしやすく、様々な障害種の児童生徒が参加型で学習しやすい教材だと思われる。・調理実習のような体験型の学習は、実際に作ったり食べたりすることで五感に訴えやすく、外国に行っていなくても外国を身近に感じやすく、インクルーシブ教育でも活用しやすいと思われる。

鈴木優成 千葉県立 B 特別支援学校 知的代替 全校児童生徒 「自分の地域や文化を感じながら全校の友だちと交流しよう」
<ねらい> <ul style="list-style-type: none">・自分の住んでいる地域や日本の文化について全校児童生徒が共に知ったり、感じたりしながら交流できる。
<活動内容> <ul style="list-style-type: none">・千葉県立博物館分館海の博物館の職員を招き、地域の特性について学んだり学校のある外房周辺に住む海の生き物に触れたりしながら交流する。・和太鼓の演舞を地域の方や児童生徒に披露する。また、地元の和太鼓グループの鑑賞をしたり、一緒に演舞したりして自分の国の文化を感じながら交流する。
<生徒の様子> <ul style="list-style-type: none">・学校が海の近くにあることを感じる事ができた。外房周辺に住む生き物に触れたりしながら異学年の児童生徒と生き物を見せ合うなど、一緒に交流して学ぶことができた。・和太鼓の演舞を披露したり、鑑賞したりした。異学年の児童生徒や地元の和太鼓グループと一緒に音を合わせようとするなど交流を深めることができた。また、和太鼓グループの日本的な衣装に注目できた。
<考察（インクルーシブ教育で活用できる教材、授業展開）> <ul style="list-style-type: none">○縦割りグループ・・・小学部、中学部、高等部の全校児童生徒で学習に取り組みやすくなった。○体験活動・・・海の生き物に触れ合うことや和太鼓を演舞する体験に取り組んだことで、異学年の児童生徒の交流活動がとても深まった。

青野 志保 区立 A 小学校 特別支援学級（知的） 1～6 年
「世界のことを考えよう」

<ねらい>

・世界について知り「考える」事を通して、子どもたちの世界・興味を広げる。

<活動内容>

- ① お気に入りの国旗を見つけよう（ぼく・わたしのフラッグ NO、1）
- ② ファッションショーをしよう（Gosuna Girls Collection 2013）
- ③ お買い物ごっこをしよう（ごすなデパートへようこそ）

<児童の様子>

- ① 家庭で国旗クイズをする児童も。②学校や家で読む本の種類が広がった。地図や世界の写真に対する興味関心の向上。③品物の原産国や輸入国に興味をもつ児童も出てきた。

<考察（インクルーシブ教育で活用できる教材、授業展開）>

～世界についての関心を広げるための工夫～

- 国旗写真・・・写真からは各々の国の大切にされていることやシンボルが表されている。よく観察することで、その国についての関心や知識を能力に応じて段階的にもつことができる。
- 民族衣装・・・実際に袖を通すことで外国人気分を楽しんだり、気候や文化によって異なる素材・色等体験したりすることができる。一緒に記念写真を撮ることで友達や教師と楽しい空間を共有することができる。
- 世界の音楽・・・リズムに合わせて自由に楽しみながら踊ることができる。障害に応じて取捨選択してたくさんの種類の音楽を用意することで自分の好きなテンポや曲調を探すことができる。
- 食べ物カード・・・日常生活にも欠かせない「食」に関するテーマなので、能力の差問わずどの児童にとっても関心をもって楽しんで取り組むことができる。

清水マヤ 都立 A 特別支援学校 肢体不自由 知的代替過程 小学部 1～3 年
「外国ってなあに？（3 時間）」

<ねらい>

- ・自分たちの国とそれ以外の国を知る。
- ・外国の言葉、文化、食べ物、遊び等に興味をもつ。

<活動内容>

- ① 日本人・外国人を見た目のみで分け、そこから感じたことを発表する。
- ② 外国の文化や国旗から、日本との違いに気づく。
- ③ 途上国の車椅子現状を知り、途上国へ車椅子を送るためアルミ缶を集める運動を始めた。（約 3000 個を 4 ヶ月で集める）

<児童の様子>

外国の家や学校、料理、衣装などの写真を見ると、日本との違いを発見しそれに興味をもち始めた。それにより、自分の家族に外国について話をすることが増えたり、自分の調べたい国や国旗を見つけるために、地域の図書館に行ったり世界地図本を買ってきて家族と調べる児童もいた。アルミ缶運動では、途上国の車椅子事情を紹介し、自分たちが使っている車椅子と比較したり、目標数を目指して主体的に集めようとしていたりしていた。

<考察（インクルーシブ教育で活用できる教材、授業展開について）>

○外国にはどんな国があるのか、自分たちの住む日本との比較を通して、まず「違い」に目を向けることで興味をもたせることができた。

・写真を様々なところで用いることで、頭の中だけでイメージすることが難しい児童にもわかりやすく提示できた。

・夏休みの宿題を出すことで、外国への興味を持続させたりさらに広げることができた。宿題の内容は、夏休み後の授業に結びつけることで、各自フィードバックしたり、友達が調べてきた国についても知ることができた。

・本単元は外国に興味をもつことが主なねらいである。その次の段階として、途上国に目を向けていきたいと考えている。実際に国際協力の体験を通して、現地の人々の気持ち、日本が行っている国際協力の現状等、児童が発信する考えや疑問をもとに授業を展開していく。

藤原 英二 都立Bろう学校 小学部3年 準ずる課程 「タイへ行こう」全4時間
<p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・タイの人々の生活や文化（手話他）に興味、関心を持ち、日本との違いや共通点に気づく。
<p><活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界やタイの国旗を知る、飛行機搭乗体験 ・タイの人々の食べ物や生活、動物、手話（こんにちは）を知る、セパタクロー体験 ・アクティビティー「今の気持ち」、タイクイズ、フォトランゲージ（食べ物） ・あるないクイズ（街並み タイろう学）、フォトランゲージ（タイろう学校 本校比較）飛行機搭乗体験
<p><生徒の様子></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業後、休み時間にセパタクローを遊んでいる。 ・タイの手話を勉強して、タイろう学校へビデオレターを送りたいと言い出したり、タイのレシピを求めたりする児童が出てきた。
<p><考察（インクルーシブ教育で活用できる教材、授業展開）></p> <p>～学力に差がある児童が共に学ぶための参加型・体験型学習の導入～</p> <ul style="list-style-type: none"> ○飛行機搭乗体験・・・みんなで楽しみながら、タイの言葉や飛行機でのマナーを学ぶことができる。 ○アクティビティ「今の気持ち」・・・言葉をかわさなくても、カードのもとに移動することで自分の気持ちを簡単に表せる。 ○セパタクロー体験（風船）・・・風船を使用することで運動の苦手な児童も簡単にセパタクローのルールや特徴を体験できる。 ○フォトランゲージ・・・誰でも写真から見つけた事を記入したり発表したりできる。（発表の順番は、書き込みの少ない児童から発表、書き込むペンの色を児童ごとと変える）

相沢 友紀 都立C特別支援学校（病院内分教室・病弱）小学部3・5年 「なるほど・ザ・ワールド」
<p><ねらい> 領域：総合的な学習の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味をもった国のもの（貨幣や民族衣装、食文化など）を調べ、発表する。
<p><活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・スーツケースの中の「世界のモノ」から調べたい国のもの、どんな調べ方があるかお互いに発表し合う。 ・各自調べ学習をし、調べたことをもとに発表の準備をする。 ・学習発表会当日、体調不良になってしまった時のために発表を録画する。 ・学習発表会を通して、それぞれの方法で発表する。
<p><児童の様子></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本物の民族衣装や貨幣など、教材をもとに調べていこうとする児童と、以前から興味があった国・地域にスポットを当て調べていこうとする児童に分かれた。どの児童も意欲的に取り組み、「他の国の○○も調べてみたい」という意見も出た。日本を基準にして予想を立てたりもした。
<p><考察（インクルーシブ教育で活用できる教材、授業展開）></p> <p>～複数学年が一緒に学習するために～</p> <p>本物の「世界のモノ」を使うことで、イメージしやすく楽しみながら異文化に触れられる学習内容とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材・・・低学年と高学年では興味をもつ対象も違ったりするが、「外国のもの」は「未知のもの」でもあり、興味関心も高かった。モチベーションを持続させて課題に取り組めた。またこの教材は他の校種でも十分に活用できる。（実際に他校にも貸し出した） ○発表方法・・・パワーポイントでのプレゼン作成は教員が予想していた以上に児童は使いこなせていた。各自でプレゼン資料を作り上げることができた。難しいところはデザイン画を児童が描き、教員の方で手伝った。しかし、ほとんど自分で作り上げることができた。その他、インターネットと地球儀が役に立った。

○全体の考察

特別支援学校および学級における国際理解教育の6実践を通じて、インクルーシブ教育に活用できる教材、授業展開について考えた。今年度は特に、異学年の児童生徒、また、特別支援教育特有の実態に幅のある児童生徒が共に学ぶためにどのような工夫が必要かという視点で教材、授業展開について考察できた。6実践を通じて共通する点として4つあった。

①「体験を伴う学習」②「児童・生徒の縦割りグループ」③「実物の使用」

④「教材提示の仕方(五感に働きかける)」

が各実践で大切にされていた。これらは、今後、普通校の児童生徒と共に学ぶ授業作りにも大いに参考となるものとする。

○今後の研究活動について

昨年度(H25年度)は研究員が所属校でインクルーシブ教育の可能性について実践・考察してきた。小学校の特別支援学級(知的)、特別支援学校(知的、肢体、聾、病弱、等)、対象児童・生徒の実態や環境が異なる中で、どの校種でも効果的であるためには何が必要かを中心に研究を重ねていった。

研究を続けた結果、実態や環境の違いはあっても、興味や関心を広げた児童・生徒が多数現れた。また、日本や自分自身を見つめることができる児童・生徒も増えた。

研究計画最後の一年となる今年度(H26年度)。昨年よりもインクルーシブの範囲を広げて所属学級や所属校の枠から出て、普通学級との交流、外部団体や学校間で交流し、インクルーシブ教育についてさらに学びを深めていきたいと考えている。